

都市交通研究室

1. 研究室のテーマ

都市交通研究室は、都市交通計画の分野を中心として、説明責任を果たし得る計画策定とその実現化、必要な技術開発と普及を行うことを目指しています。われわれの主な活動は、(1) 交通計画のあり方の検討や手法開発等、計画論・方法論を検討する調査研究と、(2) それらを適用して都市圏や都市といった実際のフィールドで計画策定等を行う調査研究に分かれます。

2. 本年度の主な調査研究活動

(1) 交通計画のあり方や手法の調査研究

a) 交通計画全般について

近年、政策決定の合理性・透明性に対する市民の関心は急速に高まっており、交通計画の分野でも対応が不可欠です。本年度は、都市圏の総合的な交通計画を検討するパーソントリップ (PT) 調査改善に、引き続き取り組みました。また、適切な政策立案の基礎となる情報を把握するための全国を対象とした交通実態調査結果の分析も行っています。

<代表的な調査研究>

○総合都市交通計画研修

本年度も、過年度に策定した「総合都市交通体系調査の手引き」をベースとして、総合都市交通体系調査に関する研修会を開催しました。

○全国都市交通特性調査 (全国 PT)

全国のあらゆる規模の都市を対象とした小サンプルの PT 調査です。結果は、国の政策決定の基礎資料として活用され、また、公開されて公共団体や研究者にも活用されています。平成 17 年秋に 62 都市を対象に調査を行った結果を用いて、分析を進めました。成果は、国土交通省ホームページや、土木計画学研究発表会において公表しました。

b) 予測・評価などの手法について

交通計画の基礎的な技術の一つである交通需要予

測・評価手法の改善に、継続的に取り組んでいます。特に利用者均衡配分手法の研究は重要なテーマです。また、大規模な都市開発に伴う交通への影響を評価する手法に関する検討とマニュアルの検討、普及のための活動も継続的に行っていきます。さらに、近年の交通実態調査への国民の協力度の低下に対して、実態調査手法の改善の検討も重要な課題となってきています。

<代表的な調査研究>

○高速道路利用を含む利用者均衡配分手法の開発

○大規模開発地区関連交通計画マニュアルセミナー

○実態調査への協力低下を踏まえた実態調査手法

○都市交通に関する都市間比較のための指標とデータのあり方に関する検討

(2) 都市圏や都市での交通計画の策定

東京都市圏での PT 調査の企画・実施に取り組んでいます。また、大都市圏における都市交通政策のあり方について研究しています。

<代表的な調査研究>

○東京都市圏第 5 回 PT 調査企画・実施

平成 20 年度秋に実施されている第 5 回 PT 調査の実施内容を企画するとともに、調査データを用いた政策立案の内容や方法、データ提供の方法などについて検討を行っています。

○大規模震災時の帰宅困難者に関する課題分析

PT 調査の滞留人口を用い、帰宅困難者数を推計し、徒歩帰宅による問題と対応策を分析しています。

3. 今後の展望

平成 20 年度には第 5 回東京 PT が実施されますので、有効なデータの確保と、より有益な成果のあり方検討に精力的に取り組んでいます。今後とも、総合都市交通体系調査など、都市交通計画の改善と普及に取り組んでいきたいと思っております。